

SSKU

お元気ですか?  
**イリアンソス**  
です。

2011



のぞみの家作品展の様子とおひさま班のみなさん

## 理事長の散歩道

### ケースワークの道 ④

## 特集

「それぞれのスタイル

それぞれのこだわりに

合わせた新しい生活を」

～生活寮「にじ・かぜ」の5ヶ月を振り返って～

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F 兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

理事長の散歩道



ケースワークの道 ④

「散歩を終えて、絆を大切に」

社会福祉法人イリアンソス  
理事長 山田耕一郎

ケースワークの散歩をしながら、七つの原則のうち、四つの原則について、あれこれ考えながら歩いてきました。ケースワークの原則は、「個人としてとらえる」「感情表現を大切にする」「自分の感情を自覚して吟味する」「受けとめる」という四つまで紹介してきました。残る三つについて簡単にふれましょう。

(第五原則) 非審判的態度

その昔、聖書の中ではキリスト教徒はなかまを裁いてはならないと、教えられてきた。精神医学とソーシャルワークも、これらの戒律の意味を深く認識して困難をかかえる人を治療したり援助するとき、その人を裁いたり、非難したりしないという考え方を重視している。

・当然なことではあるが、支援者が被支援者を非難しないという態度と、われわれが社会的・法的・道徳的な基準に無関心でいることを混同してはならない。

つまり、価値判断の基準やその結果に表れてくる行動を、一方的な審判をもつ

てあたっているのではなく、多面的に評価して接することの大切さを教えている。そのことによつて、被支援者は心の垣根を解き支援を素直に受け入れようとする姿勢がでてくるのである。そのためにも、ケースワーカーが物事を深く考える力と豊かな感受性を持つことが大切になる。

(第六原則) 自己決定

本人の自己決定の大切さは、子育てや障害児の教育でもよく言われるので、大方の理解を得ていることではあるが、これもなかなか難しいことではある。

そこで、不適切なケースワーカーの行動を上げてみると次のようなことが上げられる。

① ワーカーが自分で援助計画をすべて策定して、それを被援助者におしつけるといった従属的役割をとらせている。

② 被支援者が求めるサービスを無視して、本人の社会的、情緒的生活の取るに足らない細部まであれこれ考える。

③ 直接、間接に操作、操縦したり、コントロールするような仕方で説得する。  
これらは、自己決定からみると正反

対である。

むしろ、ワーカーは本人に見通しを持たせたり、活用する社会資源の知識を広げたり精神的な成長を図るよう援助することが大切である。

(第七原則) 秘密保持

業務上知り得た秘密は漏らしてはならないことは、福祉施設の就業規則の服務規程にうたわれているが、秘密の保持によつて信頼関係が醸成され、より良い行動の促進につながるためである。

さて、ケースワークの林を散策しながら、我々支援者が被支援者に接するための原則をF・P・バイステックがまとめた「ケースワークの原則」にそつて、あれこれ考えてみた。人が人を支援するということは、なかなか簡単なようでも難しい。

「家族」という絆、「のぞみの家」「活動センターかなえ」や「なかまの家」「生活寮」といった日中活動や夜間支援の場で生活を共にする絆の中から、一人ひとりの理解を基盤として楽しく、仲良く、働いたり、暮らしたり、生き生きと過ごしていつてほしいと切に願う。

## それぞれのスタイル

### それぞれのこだわりに合わせて新しい生活を

「生活寮」にじ・かぜの5ヶ月を振り返って

#### 生活寮『にじ』

しています。誰でも新しい生活にとまどいや不安は付き物ですが、にじ・かぜの入居者の皆さんはどうだったでしょうか？自宅と同じようなペースはつかめたでしょうか？一方で自宅とは違った過ごし方も見つかったでしょうか？また新しい楽しみもできたことでしょうか。

今回の記事を書いたのは、にじ・かぜの職員でほとんどは4月からの新人(?)です。彼らの新鮮な目に新しい生活がどのように映り、どのように感じたのでしょうか。

また、生活寮の先輩にあたるうみ・そらの職員が、うみ・そらとにじ・かぜの様子の違いを書きました。

ました。家を出て暮らすことがほぼ初めてという方が多い中で、今までどんな暮らしをしてきたのか？どんなことが好きなのか？暇な時間はどう過ごしたいか？など1日1日が模索状態でした。環境が変わって、食事や思うようにとれない人にはどうしたらリラックスして食べてもらえらるかなど親の方や日中のスタッフの方とも相談しながら、それぞれの暮らしが何となく形になり始めたように思います。

初めは日々の暮らしに慣れることで精いっぱいでしたが、最近では、時間を持って余しているのかな？と思う入居者さんを中心に、帰寮後プールや散歩に行ってみる、などいろいろとチャレンジし始めました。それによって、

また日々の暮らしに変化がうまれつつあるように思います。

リビングに集まってテレビを見るのが多かったのですが、今ではラジカセで音楽を楽しんだり（これが今のところ一番人気のようです）、読書をしたり、ぬいぐるみで遊んだりとそれぞれに楽しみを見つけているような感じでした。

近所にあるオザムやセブンイレブン、自動販売機、柳泉園、運動公園に出かけたりと活動の幅も少しずつ広がっています。

入居者同士の関わりや関係性も日々変化しているように思います。一緒にDVDを楽しんだり、散歩やプールに二人一組で出かけたリ、「お互いが気になって意識し合っているなあ」と感じられる雰囲気があります。

試行錯誤を繰り返す中で、型にとらわれそうになったり、自分だったらこうだけど・・・と悩んだりすることも多々あります。しかし、入居者さん自身を中心に考えたときにこれでいいのか？スタッフにどう伝えていくか？入居者さんから出てきた要望をどう形にしているのか？ともすれば同じことの繰り返しになってしまうようになってしまいうような仕事を、そうではなく日々のちよつとした変化に気づき、柔軟に入居者さんと一緒に様々な事柄にチャレンジしていきけるような日々を過ごしていきたいと思えます。

個性豊かな七人のにじのみなさん

生活寮「にじ」職員 田中 沙樹

私はこれまで感じてきた皆さんの過ごし方を書きたいと思います。

● 西川恵美子さん

元気がいっぱいです。普段から氷川きよしのCDを聞いています。素敵な笑顔の西川さんに励まされています。4月から寮での生活を続けていく内に、プチトマトやフルーツが目がないことを知り、トマトで食欲を誘ったこともありました。



ただいま～

● 板垣成子さん

笑顔が素敵な板垣さんはお話しすることが多く、にじのマスコットキャラクターです。可愛い笑顔と人懐っこい性格で色々な人から注目を集めることが多いです。慣れない人の中で緊張していた板垣さんですが、徐々に慣れ

てきたのか甘えた表情も見られるようになりました。



仲間とリビングにて

● 一戸智那己さん

ラジカセや豆乳が大好きな一戸さん。寮では、笑顔でCDを聞いて楽しんでます。身振り手振りで楽しそうに話しかけてくれる一戸さん。これからも一緒に笑顔を作っていけるようにしたいです。



音楽でニコリ

● 江口桃子さん

恥ずかしがり屋の江口さん。寮利用当初はスタッフと話すことが恥ずかしくて固まってしまいましたが、日数を重ねるごとに少しずつですがご飯がすすむようになってきたり、恥ずかしがることも少なく一緒にお話できるようになりました。

なりました。

● 柳瀬有希子さん

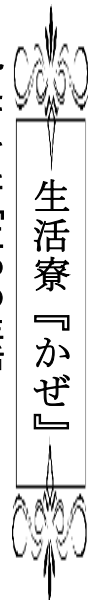
一人の時間が好きな柳瀬さんは、カセットテープを聞きながらノリノリで自室で過ごすことが多いです。食えることが大好きで、いつも夕食をカウンターの前で今か今かと待っています。感情表現がとても豊かでいつもみんなを楽しませてくれます。

● 重松洋子さん

にじで最年長の重松さん。とても面倒見がよく、他の人の心配をしてくれたり、新しいスタッフに色々教えてくれます。最近では他の人が持ってきた「にぎやかカーニバル」のDVDを夕食前などに見ることにハマっています。

● 本多萌さん

おっとりとした穏やかな本多さん。慣れない私たちは、ソファで座って笑っている本多さんが当たり前のようになっていました。しかし、日が経つごとに時間を持て余すことが多くなったようで、現在では近くのプールや散歩をスタッフや他の入居者さんで行き楽しんでいきます。



「見えてきた『三つの生活』」

生活寮「かぜ」職員 野村 敬澄

生活寮「かぜ」が4月に開寮し、新しい生活に緊張や不安があった皆さんも、生活をすするうちに徐々に慣れていき、緊張した表情から笑顔もたくさん見え自分自身の生活を見つげ楽しく生活しているように見えます。

生活寮「かぜ」では、今のところ大きく3つの生活があるように思えます。

まず、1つ目は外に出かける方、日中の活動を終え、寮に帰ってきて、少し休憩をはさんで夕食までの時間、散歩に出かけたり、園庭のベンチに座ってゆっくりと過ごしています。外に行き、気持ちいい風を感じリフレッシュできて、とてもいい表情で帰ってきます。8月は猛暑が続きなかなか外に出る環境ではなかったのですが、最近では暑さも和らぎ、散歩日和になりつつあるのか、出かける日が増えてきています。

2つ目は、自分の部屋で過ごす方。それぞれのお部屋には自分に合った生活用品があります。皆さんはそこで、好きなテレビ番組を見て、夕食を待っていたりします。面白い番組があるのか笑ったり、スポーツ番組であれば、応援する声が聞こえてきます。また、ゲ

ームを楽しまれる方もおり、一人で楽しんでプレイしたり、時にはスタッフも一緒になって遊んでいます。音楽が好きな方は、CDラジカセが部屋にあり、音楽をかけのんびりとした時間を過ごしています。お気に入りの音楽を横になりながら聴いている姿はとてもしラックスしているように見えます。日中の活動を頑張っている皆様は、疲れているときは「疲れたー」といった感じで横になって休んでいる方もいます。このように自分の部屋で皆さん好きな時間をゆっくり過ごされています。

最後の3つ目は、リビングに集まって過ごすことです。このリビングの壁にはスクリーンに映し出された大型テレビの画面が映っています。夕食前後の時間、画面を中心にソファやカウンターの椅子に座って見てゆったりした時間を過ごしています。番組の笑えるシーンがあると皆さんの笑い声が聞こえ、とても楽しい雰囲気になります。

このように、自分の部屋で、自分の好きな時間を過ごすだけではなく、時には私を含めたスタッフや入居者さんのみんなと一緒に楽しく過ごしています。三つの生活がこれからのように変化し、またどのように増えていくのか楽しみです。

「寮での楽しみ・お気に入りの過ごし方」

生活寮「かぜ」職員 村越 徹

新しい生活寮がスタートして、気がつくともう半年の月日が流れました。開寮当初は、泊まる事が出来るのか？慣れない生活に眠れなくなるのでは？そもそも寮に入る事を拒否してしまうのでは…と私自身不安だらけのスタートでした。しかし生活寮での新生活がスタートすると、まるでスタッフの心配をよそに入居者のみなさんはどんどん自分の生活スタイルを築き上げていきました。

自分だけのお気に入りのスポットを見つけたKさん、その場所で気持ちよく寝そべる姿は、思わずとろけてしまうのでは!?!と考えるしまうほど幸せな表情を浮かべています。いつも元気なMさんは大好きな散歩が今では毎日の日課?になっているようです。お風呂上がりのアイスクリームを心待ちにするYさん、食べた後はご満悦です。テレビゲームのBGMに合わせて大熱唱されるTさん、つられて思わずスタッフも口ずさんでしまうことも。外のベンチで夕陽を見ながら心地よい風にあたるのが好きなYさん。夕食の支度を毎回楽しそうに鼻唄をうたいながら見つめるMさん、時折見せる真剣な眼差しはまるでプロの料理人のようです。デイズニーやジブリ映画が大好きなTさん、ニコニコな笑顔に

その場が和みます。…と、これはほんの一部になります。それぞれ楽しさを見つけた日々をいきいきと生活されているようです。

最近では、一人の時間を有意義に過ごすだけではなく、入居者同士でテレビやゲームを見て楽しんでる姿もよく見かけます。中には部屋の外からドアに隠れながらも隣の様子をそくそくとうかがっているちよっぴり照れ屋さんもいるようですが、徐々に周囲との繋がりも増えてつづあります。

始まったばかりの慣れない寮での生活を毎日元氣いっぱいにごしている入居者のみなさんに負けないように、私たち新人職員も元氣いっぱいいつまでもフレッシュな気持ちで一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。

### 生活寮うみ・そら

にじ・かぜの生活風景について

生活寮「そら」職員 花形 優

生活寮にじ・かぜが開所して以来、私を含むその職員3人は交代で毎週木曜日、夜勤で勤務に入っています。同じ法人内の生活寮ですが、時間の流れや過ごし方に違いがあるように思われます。例としてリビングでの過ごし方を紹介したいと思います。

生活寮そらでは、夕方帰宅後ほとんどの入

居者さんたちがリビングで過ごしています。おやつを食べたり、テレビを観たり、スタッフと会話を楽しんだり、夕食を作っている知らないけどそんな様子を楽しんでいる人もいたり。同じ空間の中で時には一緒に、もちろん時には別々にそれぞれが過ごしやすいうように生活しています。また、夕食時にはほとんどの入居者さんがリビングに出てきてほぼ同じ時間、みんなと一緒に食べています。(部屋で食べている方もリビングの様子見ながら？食事を楽しんでいきます)。食事の時間を決めていくわけではないのですが、18時近くになると食事への期待が高まって、リビング全体の熱気が高まるようです。

このように生活寮そらでは、リビングが住まいの中心になっています。リビングに全員がそろわない日(体調を崩されてご自宅に帰ったり、事業所の旅行など)があったりすると心配そうな表情をする入居者さんも見受けられます。「お互いが大事な同居人なんだ！」そういった入居者さん同士のつながりも今後も大切にしていきたいと思えます。

一方の生活寮かぜですが、広くて大きなリビングが「集う場所」ということではなく、「過ごす場所・時間の選択肢の一つ」のように思えます。

各寮、人も環境も違うので生活風景が違う



おやつでノンビリ



お部屋でリラックス



また明日!

のは当たり前なのですが、その中でそれぞれ入居者さんたちの自分らしさ、自宅とは違う生活の楽しみなどみつけていけたらなと思うのは一緒なのかなと思います。

## がんばれ イリアンソス！シリーズ③ 頑張っているイリアンソスへ

元さいわい福祉センター所長 田中紀久子

私は、平成八年さいわい福祉センターの開設時から所長として東久留米市のしやうがい福祉の仕事を十年間させていただきました。

東久留米市を去つても、もう五年半になりませんが憶えていてくださっているでしょうか。当時コスモ（緊急一時保護事業）でお預かりしていたお子さん達も随分大きくなりましたことでしょう。私は当時の事は今でもはっきりとおぼえております。東久留米で感じたことは、それは、東久留米で暮らしている、しやうがい者（児）・保護者、またその方々を支えている支援者の情熱とパワーに驚かされました。そして、色々なグループがありどのグループもしっかりとした理念の基にわずかな補助金で頑張って運営されていました。

この民間魂のような大きな力に、センター在職中は多くの事を学ばせていただきました。

その中でも、特に「のぞみの家」とは親しくお付き合いをさせていただきました。初めて、「のぞみの家」を訪問した時は、前の建物でバザー品が山積されており、お母さんが整理をされていて、側で利用者何人かいて家庭的雰囲気を感じました。

その頃、法人化をめざしていたのでしやう。とにかく、お母さん方の熱気に圧倒されました。その後、社会福祉法人イリアンソスが設立し、東久留米に「のぞみの家」という大きなひまわり

りの花が咲きました。私も縁あって東久留米の地域福祉に携わった者として、地域のみなさんと一緒に歩んでいくことを誓っておりましたので、磯部施設長とは、地域福祉の中でも特に「しやうがい者が、地域で暮らしていく」ことをたくさん話しあいました。その度に、彼の思想・信念に心打たれることが多くあり。いつも相談相手で助けてもらっていました。

社会福祉法人イリアンソスの設立は、関係者みなさんの思いと努力で実ったものでした。しかし、地域には次々とニーズがありました。特別支援学校（当時の養護学校）卒業対策が不備で作業所が足りなく、特に重い障害の方の受け入れがなく困惑している状況でした。

当時、施設代表者会議で検討した結果、イリアンソスが「どうにかしやう」と言いだしました。

その結果、「活動センターかなえ」の開設でした。開設に当たっては代表者会全体で協力してチャリティー絵画展を開催し、開設資金の一部にしました

「活動センターかなえ」の開設で何人もの利用者・保護者が助けられたことではしやう。「かなえ」の運営も大変な苦労があったことと察します。職員が頑張り続けたことで今があるのだと思います。その粘り強さと信念ではしやうか。次には生活寮「うみ・そら」を開設されました。

私も、当時法人の評議員でしたので事情がわかっていましたので大変でした。土地は借用できたものの建物の資金がなく、いろいろ工夫した展開で開設されました。

その後、私は平成十八年に転勤し東久留米市を去りましたが、この間、「なかまの家」「このみ移動支援事業」と各事業を広げ、最近では生活寮「にじ・かぜ」を開設したことを聞ききました。思わず、「すごい、すごい」と連発しました。利用者にとっては本当に良かったと思うと同時に「イリアンソス大変だ」と思っていました。そして、「イリアンソスはえらい、すごい」とエールを贈る気持ちでいっぱいになりました。「どんなにしやうがい者が重くてもこの地域で支えたい」といつも磯部さんが語っていたことを改めて思い出しました。

人が人として生きていくこと。暮らしていくことは、しやうがいがあるうがなろうが同じであり、人生の哲学であることを感じます。

このように次々と実践している支援者が地域に存在していることは、利用者・家族にとって幸せでないではしやうか。イリアンソスのご利用者・ご家族・支援者のみなさんと、これからもたくさんひまわりの花を咲かせてくださ

い。

益々のご発展とご活躍をお祈りしています。

がんばれ イリアンソス！

# 法人行事

くろてん

## 『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程：10月6日(木) 20日(木)

11月10日(木) 24日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

## 『イリアンソス大バザー』

イリアンソス後援会 掘出し物あり、各種模擬店あり。

◎日程：10月9日(日) ※雨天翌日順延(10月10日(月))

◎場所：滝山団地センター前広場

## ご寄付をいただきました。

(8月4日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

崎原 ひとみ様

山脇 百合子様

イトーヨーカドー労働組合様

ありがとうございます。

## 編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています！

## 《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21  
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

## 《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス  
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18  
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

## 《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、  
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円

## 編集後記

夏休み中の小学校の宿題プリントの答え合わせは親がします。そうではなくても、「勉強！」などというと、途端にやる気をなくすうちの子に、私が「答え合わせするよ！」というと文句だらけ…。夏休みまで、親子が喧々諤々したくないです…。「宿題だから」といつて作ってくれた六年生の息子のカレーライスに舌鼓を打った「夏休み」も終わり、一年生の娘が育てたアサガオに種ができました。その種は、来年の新生一年生にプレゼントするそうです。来年の夏休みは、日本中の子どもたちが放射能に苦しまず、のびのび過ごせますように…。

活動センターかなえ 多田由美